

司 式 熊 田 雄 二 牧 師

前 奏

奏 楽 森 永 美 保 姉 妹

開 会 招 詞

\* 賛 美 歌 15:1 わが主のみわざは ことごと正し

わが主のみわざは ことごと正し 妙なるみ旨に全てを任せん

主はわが神なり ともしき時のわが助けなり アーメン

\* 開 会 祈 禱

罪 の 告 白 祈 禱 書 3 罪 の 告 白 ②

主なる神よ、あなたの御前に背きの罪を告白します。わたしは聖なる戒めに従わず、失われた羊のように迷い出て、思いと言葉と行いにおいて罪を犯しました。しなければならぬことをせず、してはならぬことをして、自分の身に、あなたの怒りと裁きを招きました。憐れみに富んでおられる父よ、罪と過ちを悲しむわたしに憐れみを注いでください。神の独り子である救い主の名によって、わたしを赦してください。聖霊の恵みによって、わたしを新しく生まれ変わらせてください。願わくは今から後、み栄えのために生きる者とならせてください。

主イエス・キリストの御名によって。アーメン。(詩編32、イザヤ53、ローマ7)

罪の赦しの宣言

十 戒 祈 禱 書 4

1. あなたは、わたしのほかに、何者をも神としてはならない。
2. あなたは自分のために刻んだ像を造ってはならない。それにひれ伏してはならない。それに仕えてはならない。
3. あなたは、あなたの神、主の名を、みだりに唱えてはならない。主は、み名をみだりに唱える者を、罰しないではおかない。
4. 安息日をおぼえて、これを聖とせよ。
5. あなたの父と母を敬え。
6. あなたは殺してはならない。
7. あなたは姦淫してはならない。
8. あなたは盗んではならない。
9. あなたは隣人について偽証してはならない。
10. あなたは隣人の家をむさぼってはならない。隣人の妻、またすべて隣人のものをむさぼってはならない。(出エジプト20、申命記5)

\* 賛 美 歌 15:2 わが主のみわざはことごと正し

わが主のみわざはことごと正し 嵐の中にも安けく憩わん

主はわが父なり 悩める時のわが救いなり アーメン

共同の祈禱 祈禱書36 平和を創り出す日

平和の源であり調和を愛される神さま、あなたがくださったキリストは、実に、わたしたちの平和であります。それゆえ、あなたを知ることが永遠の命であり、あなたに仕えることは完全な自由であることを覚えて、心から御名を賛美します。

キリストは神の国の完成のために再び来られますから、わたしたちは、教会と国家の改革のために、絶えず目をさましてキリストの恵みを祈り求め、そのために努力することができますように。  
(エフェソ2、「教会と国家」四)

献 金 (黒) 教会活動 (赤) 8・15集会を覚えて 70

今ささぐるそなえものを 主よ きよめて うけたまえ アーメン

聖書朗読 ルカによる福音書9章10～17節 (新約聖書121頁)

説教・祈禱 「パンの奇跡」 熊田雄二牧師

\* 賛美歌 77番1節 天よりの主イエス

神の御子を人にたもう 父なる神の御国望み  
わが主イエスの裂きたまいしパンの一切れ取りて食す  
御からだ受く われは主のしもべ

\* 主の祈り 祈禱書1

天にまします我らの父よ  
願わくは御名をあがめさせたまえ  
御国を来たらせたまえ 御心の天になるごとく 地にもなさせたまえ  
我らの日用の糧を 今日も与えたまえ  
我らに罪を犯す者を我らが赦すごとく 我らの罪をも赦したまえ  
我らを試みに会わせず 悪より救い出したまえ  
国と力と栄えとは 限りなく汝のものなればなり アーメン。

\* 頌 栄 65 父・御子・御霊の

父・御子・御霊のおお御神に  
ときわに絶えせず 御栄えあれ 御栄えあれ アーメン

\* 祝 禱

後 奏 (黙禱)

報 告 古澤兵庫長老 (司会・受付 次週：門脇陽子長老)

本日 受付 1階：佐藤紀子執事 2階：藤井牧子執事 / 動画：大日南信也執事 録音：森永翔馬兄弟  
次週 受付 1階：森永美保執事 2階：藤原宏章執事 / 動画：大日南悠兄弟 録音：森川莞太兄弟

## I パンの奇跡

パンの奇跡に関しては、否定説がいくつかあります。

- ① ヨハネ福音書によると、五つのパンと二匹の魚を差し出したのは少年でした。イエスが少ない食料を裂いて与えると、感動した人々が、隠していたのを我も我もと差し出したというのです。
- ② この場面、マタイ福音書は男だけで5000人と書いています。50人ずつ一組を五千人だと100組です。女と子供を入れると、1万人以上になります。本当はそんなにいなかった。本当は人数が少なかったというのです。
- ③ イエスの言葉と愛の業で心がいっぱいになって、パンくず一つでもお腹がいっぱいになったという説明です。これは良心的解釈ではありますが、これでは12の籠いっぱいには余るはずはありません。
- ④ 悪意のある解釈。夕闇の暗がりの中で、種も仕掛けもあった。女と子供を入れると、1万人以上を満腹させるトリックは、結局、みんな弁当持参だったという説です。イエスは弟子たちに「あなたがたが与えよ」と言われたが、弟子たちが1万人以上の食料を隠しておいてパッと手品のように出せるはずはない。200円の昼食はしばらくやっていませんが、100人分くらいでしょう。その100倍が1万人です。一万人の給食を一瞬に出せるはずはない。実は、弁当持参だったというわけです。

否定説は、すべて、神の存在を否定する説です。イエスは奇跡を起こす神ではないと前提しています。そこでこれは、イエスを何者だと言うか、信仰告白の問題なのです。それゆえ、パンの奇跡は、四つの福音書がどれも書く重要な奇跡です。

## II パンの奇跡

ルカとヨハネは1回しか記録していないのですが、マルコ、マタイでは2回記録しています。

1回目は、男だけで5000人に、5つのパンと2匹の魚で満腹させたという奇跡です（ヨハネ福音書では少年が持っていた）。残ったパンくずを集めると12籠ありました。場所はイスラエル人の地でした。イスラエル12部族なので12籠残りました。

2回目は、男だけで4000人に、7つのパンと小魚少しで満腹させたという奇跡です。残ったパンくずを集めると7籠ありました。場所は異邦人の地です。「食卓から落ちたパンくずは子犬でもいただきます」と言ったカナンの女の話のあとです。ですから7籠はイスラエル人以外の異邦人全てに及ぶ恵みです。7は天地創造の七日間を意味しています。

ルカとヨハネは1回目だけ記録しています。特にルカは異邦人伝道に派遣されたパウロといっしょでありますから、異邦人相手なら2回目の方が合っているはずです。しかし、パウロは町から町を巡って、まず最初にユダヤ人の小礼拝堂シナゴグに行きます。それから町の人々に福音を告げ知らせます。

すなわち、12はイスラエル、7は7日間の天地創造による全人類ですが、どちらにも共通していることは、主イエスの聖餐式のしぐさです。数々の奇跡の中でも、これは明白に、十字架と復活のキリストを見つめるための奇跡でした。この重要性から、四つの福音

書は、みな、この記事を入れるのです。

### Ⅲ イエスとは誰か

さて、イエスに関するうわさが、いろいろ立っていました。「洗礼者ヨハネが生き返ったのだ」、「奇跡を行なった預言者エリヤの到来だ」、「誰か昔の預言者だ」。しかし、イエスを預言者以上の者、いや、預言者をも含む祭司であり王である「キリスト、救い主」と告白するのが、真の弟子にとって大切な場面です。それは次のお話なのですが、きょうはその舞台設定です。

10節は、そういう噂からは、いったん退かれるイエスの姿を描いています。「使徒たちは帰って来て、自分たちの行なったことをみなイエスに告げた。イエスは彼らを連れ、自分たちだけでベトサイダという街に退かれた。」（マタイでは「これを聞くと、舟に乗ってそこを去り、ひとり人里離れた所に退かれた。」）

ところが11節「しかし、群衆はそのことを知ってイエスの後を追った。イエスはこの人々を迎え、神の国について語り、治療の必要な人々をいやしておられた。」せっかく退かれたのに、イエスは、病気を癒してもらいたいという群衆を拒むことはなさいませんでした。奇跡だけ見たいという人たちは相手になさいませんでした。故郷ナザレ村では人々が不信仰なので、そこでは奇跡をなさらないで去って行かれました。同じように、奇跡だけ見たがるヘロデ王からも去って行かれました。

しかし、憐みを必要とする人々からは去って行かず、奇跡を行なわれたのです。癒しの奇跡を行なわれました。イエスのなさる奇跡は、すべて、救い主キリストとしてなさる神の恵みなので、ただビックリさせてやろうというようなものではありません。どれも愛と憐みが示されています。パンの奇跡も、イエスがキリストであることを指し示す重要な奇跡なのです。

### Ⅳ 聖餐式

現代も、聖餐式という驚くべき奇跡がなされ続けています。現在、疫病感染によってしばらく行なうことができませんが、聖餐式の本質である、御言葉を食べるという恵みは受け続けています。説教は、聖書が語ろうとすることを聴くというのが本質です。聖書が語ろうとすることの本質は、イエス・キリストにおける神の愛です。だから、すべては神の愛キリストをいただくことに通じます。イエスをキリスト＝救い主としていただく儀式に通じます。つまり、聖書のすべては聖餐式に通じるのです。キリストをいただくことによって、信仰が養われるからです。

ミサの聖体拝領を否定して16世紀に始まったプロテスタントですが、20世紀の礼拝改革で毎週聖餐式を行なう教会も出始めました。毎週聖餐式を行なわないとしても、最後はキリストをいただくという聖餐式に通じていくのでないと、説教は的が外れていくことがあります。

主イエスは、私たちにご自身をお与えになる意味で、聖餐式のしぐさをなさったのがパンの奇跡です。主イエスの恵みは、籠いっぱい溢れるほどです。これを世界中の人々に分け与える使命が、代々の弟子たちに与えられています。群衆にパンを配った弟子たちの仕事は、今、私たちにも託されています。

西洋の世俗化されたキリスト教世界にも、なおパンは配られ続けています。イスラム教世界にも少数のキリスト教徒がおり、迫害されても殺されても、なおパンは配られています。そして、東洋でも、クリスチャンの多い国少ない国はありますが、なおパンは配られているのです。

2001年9月11日のアメリカ同時多発テロより、日本人もテロの標的になった今日、地上には安住の地はありません。「あなたがたは戦争と戦争のうわさを聞く」と言われた主イエスの言う通りになっています。クリスチャンは地上では旅人であり仮住まいの身です。クリスチャンは「我らの国籍は天にあり」と永遠に確かなパスポートを与えられて生きる者です。

本当の天国は、イスラム原理主義のジハードで殉教して行く所ではありません。本当の天国は、「御国を来たらせたまえ」と祈りなさいと言われた主イエスによって来るものなのです。主イエスと共に近づいて来るのが天国の本質です。本当の天国は、地獄と化した罪のこの世に、救い主が来てくださったことによって始まったからです。だから、「天国は近づいた。悔い改めて福音を信ぜよ」という主イエスの宣教によって、天国は、天の神の御子が地上に降りて私に迫って来るものです。そのように神の愛が私に迫って来るものです。「死んだら天国に行く」ということが可能になるのは、キリストが天から降りて、死んで復活して昇天されたことによります。

救い主の死と復活によって、罪人は天に居場所が用意されました。本当の天国は、この世でもあの世でも存在するようになりました。だから、イエスを罪からの救い主と信じるように伝道することは、武力で脅して改宗を迫るようなものではありません。福音宣教は、主が再び来られるときまで、主の死を告げ知らせることによってなされるものです。

今も生きて働いておられる宣教の主イエスのみわざにお仕えしましょう。